

平成28年度行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	後期高齢者医療企画指導費			担当部局	保険局		作成責任者		
事業開始年度	平成20年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	高齢者医療課		泉潤一		
会計区分	一般会計								
根拠法令(具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	-				
主要政策・施策	-			主要経費	社会保障				
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	都道府県ブロック会議を開催等し、後期高齢者医療制度に関わる都道府県及び後期高齢者医療広域連合への指導等を行うことで、後期高齢者医療制度の円滑かつ適正な運営を図る。								
事業概要(5行程度以内。別添可)	各都道府県の後期高齢者医療主幹課(部)、後期高齢者医療広域連合等より出席を得て、都道府県ブロック会議を開催、または、広域連合が開催したブロック会議等に出席し指導等を行う。								
実施方法	直接実施								
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	0.4	0.3	0	11	0.6		
	執行額	0.4	0.3	0					
	執行率(%)	100%	100%	-					
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 28 年度
	47都道府県後期高齢者医療広域連合への指導、情報提供	指導、情報提供等を行った広域連合数	成果実績	箇所	47	47	-	-	47
			目標値	箇所	47	47	-	-	47
			達成度	%	100	100	-	-	100
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標			単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
	都道府県ブロック会議の開催(出席)回数	活動実績	回	7	7	-	7		
		当初見込み	回	10	8	-	7		
単位当たりコスト	算出根拠			単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
	単位当たりコスト = 執行額(X)/(会議開催(出席)回数(Y))	単位当たりコスト	円	56,285	53,833	-	85,285		
		計算式	X/Y	394,000/7	323,000/6	-	597,000/7		
平成28-29年度予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由					
	職員旅費	1	0.5	医療給付適性化業務庁費については、平成29年度以降は別途措置することとしたため。					
	委員等旅費	0	0.1						
	医療給付適性化業務庁費	10	0						
計	11	0.6							

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策		施策大目標9 全国民に必要な医療を保障できる安定的・効率的な医療保険制度を構築すること							
	施策		施策目標 I-9-1 適正かつ安定的・効率的な医療保険制度を構築すること							
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度	
			実績値	-	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
	-									
	改革項目	分野:	-	-						
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)			単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-	
		目標値	-	-	-	-	-	-		
		達成度	%	-	-	-	-	-		
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)			単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
		成果実績	-	-	-	-	-	-		
		目標値	-	-	-	-	-	-		
		達成度	%	-	-	-	-	-		
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係										
-										

事業所管部局による点検・改善					
項目		評価	評価に関する説明		
国費投入の必	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	円滑な制度運営のために必要であり、国民のニーズにも合致する。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	円滑な制度運営の確保は国の責務であり、国が実施すべき事業である。		
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	円滑な制度運営の確保は国民からのニーズもあり、優先度は高い。		
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	少額のため、随意契約により執行。		
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無			
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無			
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-		
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	-		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-		
	費目・用途が事業目的に即真に必要なものに限定されているか。	-	-		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-	-			
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-	-		
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-		
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-	-		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	-		
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)				
	所管府省・部局名	事業番号	事業名		
点検・改善結果	点検結果	後期高齢者医療制度は制度発足から6年を経て、広域連合の体制が確立されたため、制度周知等の必要性が低くなったことから平成27年度において事業の見直しを行ったところである。しかし、平成27年度の制度改革の議論において、高齢者医療制度の更なる検討が参議院付帯決議により求められ、更に後期高齢者の保健事業の充実を図る観点から、高齢者への保健指導が法律上明記され、広域連合と連携を図りながら事業を実施していく必要があることから平成28年度から予算措置することとなった。			
	改善の方向性				
外部有識者の所見					
点検対象外					
行政事業レビュー推進チームの所見					
現状通り	平成27年度は予算がないが、平成28年度については適切な執行に努めること。				
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
執行等改善	今般の制度改革において高齢者への保健指導が法律上明記されたことから、平成28年度については、事業内容を見直すとともに適切な予算要求に努めた。				
備考					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年度	267	平成23年度	238	平成24年度	204
平成25年度	237	平成26年度	249	平成27年度	259

